

国有林野 事業の取組

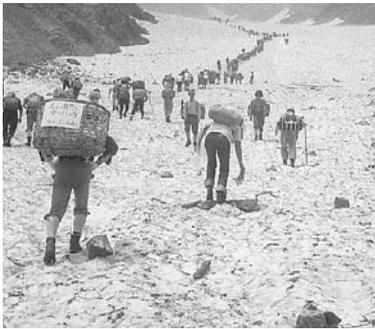
中部森林管理局

「高山植物を守るグリーンパトロール隊」

―四〇年間の保護活動―



昭和49年度 グリーンパトロール隊結隊式



昭和50年代のグリーンパトロール隊が入山する様子(白馬大雪渓)



昭和50年代のパトロール隊の活動の様子

1 はじめに

我が国では、日本山岳会によるヒマラヤ山脈マナスル登頂を契機として、昭和三〇年代、第一次登山ブームが青年層を中心に広まりました。そして、アウトドアブームや健康志向、さらには作家・深田久弥氏による日本百名山が追い風となって、中高年層を中心とした第二次登山ブームが始まり、現在、日本の登山者人口は一千万人にも及ぶと言われています。

こうした中、日本を代表する高山である北アルプスでは、登山道以外の踏み荒らしや高山植物の採取、ゴミの投棄、指定区域外のキャンプなどの問題が生じており、また、シナノキンバイやハクサ

シチゲなど貴重な高山植物や、ライチョウなどの希少生物の保護管理の在り方が大きくクローズアップされています。

中部森林管理局では、北アルプスの国有林野を管理する中信森林管理署及び富山森林管理署にグリーンパトロール隊を設置し、登山客の誘導や高山植物の保護管理、清掃活動等を四〇年にわたって続けています。

2 グリーンパトロール隊のはじまり

中信森林管理署では、大正二一年に白馬岳の「白馬連山高山植物帯」が天然記念物に指定されたことから、当時の担当区主事が巡視や高山植物の保護管理を開始し、また、昭和一一年には白馬岳頂上に詰所を設

置し監視員による監視活動を行ってきました。そして、昭和三九年には行政、報道機関、山岳関係者等からなる「高山植物等保護対策協議会」の発足に伴い保護監視員を配置し、昭和四五年に現在のグリーンパトロール隊がスタートしました。

また、富山森林管理署では、昭和三〇年頃から職員を中心に高山植物の保護活動を行ってきましたが、昭和四六年に立山黒部アルペンルートが全線開通したことから「立山地区国有林野保護管理協議会」を設置し、同年、グリーンパトロール隊による活動が始まりました。

3 グリーンパトロール隊のメンバー

今年度のグリーンパトロール隊は、中信森林管理署では女性五名を含む二八名、富山森林管理署では女性四名を含む二名です。いずれも公募により選ばれた方々ですが、標高二千メートル以上の山岳地帯での移動が主たる活動のため、みなさん相応の登山技術・経験を有しています。

4 グリーンパトロール隊の活動内容

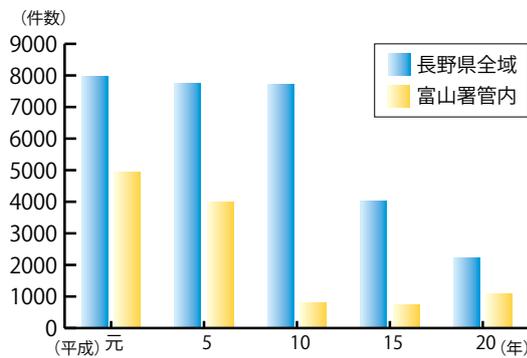
北アルプスの国有林野内において、グリーンロープの設置等による登山客の誘

導、看板の設置と補修、ゴミ拾い等の清掃活動、高山植物の保護の呼びかけと開花調査、ライチョウの生息確認など多岐にわたる活動を行います。

活動期間は毎年七月中旬から八月中旬までで、一名二班となり、各小屋を移動しながらパトロールを行います。

平成二〇年度のグリーンパトロール隊による注意指導件数は、中信森林管理署管内で二四一件（四〇八人）、富山森林管理署管内で二〇七六件（二五七四人）です。違反内容としては写真撮影のための規制区域への立ち入り・踏み荒らしが最も多く、高山植物の摘み取りとゴミの投棄、焚き火、指定区域外でのキャンプ、ベツ

過去 20 年間の注意指導件数の推移



※青色は長野県全域におけるものであり、林野庁職員による注意指導件数を含む。

トを連れた登山に對する指導もありません。また、昨年は、骨折して動けなくなった登山者の救助活動や、疲労で歩けなくなった登山者を山小屋まで運ぶなどの人命救助も行いました。長年の活動により違反者数は減少傾向にあり、二〇年前と比べて約四分の一になっていますが、近年の傾向としては外国人登山客による違反が多く見られることから、四カ国語からなるパンフレットを作成・配布して注意喚起を行っています。

5 おわりに

山の中で様々な人と出会い、活動を通じてモラルの大切さや自然保護の難しさを経験することから、北アルプスでのパトロール活動はそれぞれの隊員にとって非常に貴重な経験となっており、そのことが、四〇年にも及ぶパトロール活動の源泉ともなっているようです。

今年度のグリーンパトロール隊による活動は終了しましたが、中部森林管理局では、自然の保護管理を通じて登山者に自然の大切さを認識して頂くとともに、国有林野内の貴重な自然を後生に引き継ぐため、引き続き、各種取組を進めていきます。



看板の補修作業
(富山森林管理署管内)



登山者に対する説明
(中信森林管理署管内)



平成21年度グリーンパトロール隊結隊式